

Q11： 外国語活動を指導する際に、どのような点に気を付けたらよいですか。

A11： 学習指導要領の目標や内容、内容の取扱いを十分に踏まえて、指導していきましょう。

### 「外国語活動の目標」

小学校段階では外国語を通じて次のような姿を育成することを目指します。

- ・言語や文化について体験的な理解を深める。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。



### 「コミュニケーション能力の素地」を養う。

#### 「指導に際して留意すること」

(1) 「覚えなければならない」という心理的な負担感を与えないようにしましょう。

- ・無理に文型や語彙を覚えることを求めたり、テストを行ったりしないことです。
- ・前の時間に同じ表現に触れたからといって、次時も覚えているとは限りません。繰り返しながらその表現に慣れ親しむようにします。

(2) 「間違えても大丈夫」「忘れても大丈夫」という意識を大切にしましょう。

- ・必要以上に「正しさ」を求めずに、誤りを細かく訂正しないことです。  
(内容が伝わる範囲であれば、発音や文法の誤りがあってもその場で、指摘して直させるのではなく、正しい英語にさりげなく触れさせるよう工夫しましょう。)
- ・言い間違えたり、発音や表現を忘れたりしても、強制的に言い直しをさせないことです。

(3) 活動を通して、英語の表現に自然に慣れ親しむようにしましょう。

- ・英語の表現や発音は、歌やゲーム等の活動を通して、自然に何度も聞いたり、話したりしながら慣れ親しむようにすることです。
- ・新しく扱う英語の表現は必要最小限にして、児童に不安や負担感を与えないようにしましょう。また、中心となる活動を行う前に様々な活動を通して、繰り返し触れる機会を設けて、表現に慣れ親しむように工夫しましょう。
- ・指導者はクラスルーム・イングリッシュをできるだけ使用しましょう。  
(指示する表現や認める表現等、日頃から積極的に使ってみましょう。)

(4) 一人一人のよさや伸びを積極的に評価するようにしましょう。

- ・一人一人の児童の実態に応じて、活動中や終末の評価でも児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を大いに認めて励ましましょう。

(5) 教師が一人の学習者モデル、コミュニケーションを図ろうとする者のモデルとしての姿を示しましょう。

- ・HRT（学級担任）は、英語を積極的に使うことに心がけ、相手に何とかして英語で伝えようとするモデルとしての姿を児童に示すことです。もちろん指導者自身も場合に応じて、活動に参加しながら活動を楽しむことが大切です。
- ・HRT（学級担任）は、一人で授業を行う場合もあるので、ALT との交流や研修会等の機会を通して、英語に慣れ親しむようにしましょう。
- ・ALT（外国語指導助手）や JTE（日本人英語教師）、地域人材講師など指導者は、児童が憧れをもてるような話し手、聞き手としてのモデルを示すことも大切です。

(6) 音声を中心とした指導をしましょう。

- ・文字についてはアルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる段階にとどめ、児童の興味に応じて児童の学習負担にならないように配慮しながら、音声によるコミュニケーションを補助するものとして考えましょう。

(7) ALT の英語を1つ1つ日本語に訳したり、英語の発音をカタカナに置き換えたりしないようにしましょう。

- ・最初から ALT が話していることが全部分からなくても、おおよそ何を言っているのか推測したり、理解したり等経験を児童にさせることが大切です。

(8) 教材・教具など学習環境を工夫しましょう。

- ・教師が活動に合った衣服を着用したり、教材・教具を用意したりします。

（ALT にサンタクロースの衣装を着てもらったり、活動時にワークシートに貼り付けるカラフルなシール等を用意したりする。）

- ・季節や活動に合った教室環境を整えます。

（日本や外国の行事や季節に関する飾り付けをしたり、前の活動で用いたカードや児童の作品等を掲示したりする。）

